

のりの生産始まる！

- 加入実績はほぼ前年並み -

今年ののり養殖業は、採苗・育苗期の秋口に水温が高く、各地区とも今漁期に対する見通しが大変心配されたところでした。

しかし、幸いにもその後は海況、漁況ともに順調に推移し、11月15日の宮城県を皮切りに千葉県、愛知県そして有明地区と行われた各地区ののり共販では、出荷量・平均単価ともに昨年同期を上回り、まずまずの滑り出しとなっています。

のり生産概況(12月11日時点)

	平成17年度	昨年同期比
出荷量	13億8900万枚	3億5300万枚増
総金額	170億1300万円	49億4300万円増
平均単価	12円25銭	0円60銭高

海苔速報 第17報(平成17年12月14日)

全国海苔貝類漁業協同組合連合会

より作成

このような中、今年度ののり特定養殖共済の契約実績は、共済限度額で803億円、前年対比101%、10億円増、共済金額で564億円、前年対比101%、8億円の増加となっており、昨年から新規契約を加えたものの、廃業等によりほぼ前年並みとなりました。

近年ののり特定養殖共済は平成12年漁期の有明海での大不作以降、平成14年には全国的な色落ち被害等から、制度発足以来最大となる41億円の共済金を支払うなど近年多額支払の事故が続いております。

昨年度は漁期終盤で天候等に恵まれたものの、漁期当初の台風被害、高水温、年明け以降の色落ち被害などにより地域格差が大きく生じる結果となりました。

今後は冷凍網の種付けが良くないという情報もあり、冷凍網による生産がどのように推移するか予断を許せません。加えてのりIQ枠のグローバル化の中で枠の拡大や中国からの輸入動向等、今後の様変わりがどうなるか、のり養殖業者の皆さんにとっては改めて将来ののり養殖業について危惧される所です。

のり養殖業をとりまく経営環境は楽観のできない厳しい情勢が続いており、漁業経営の安定策として「ぎょさい」の果たす重要性がますます高まっているものと痛感しております。今後も更なる「ぎょさい」へのご理解をお願い致します。

平成 17 年度契約 のり特定養殖共済の引受実績

(単位:百万円)

	平成 17 年度			平成 16 年度			対比		
	件数	限度額	共済金額	件数	限度額	共済金額	件数	限度額	共済金額
東北	204	5,096	1,825	129	4,244	1,762	158%	120%	107%
東京湾	21	404	404	23	473	473	91%	85%	85%
伊勢湾	310	8,434	4,202	325	9,054	4,494	95%	93%	94%
瀬戸内	937	26,543	18,284	975	26,941	18,407	96%	99%	99%
九州	844	39,785	31,647	856	38,508	30,445	99%	103%	104%
合計	2,316	80,263	56,363	2,308	79,219	55,580	100%	101%	101%